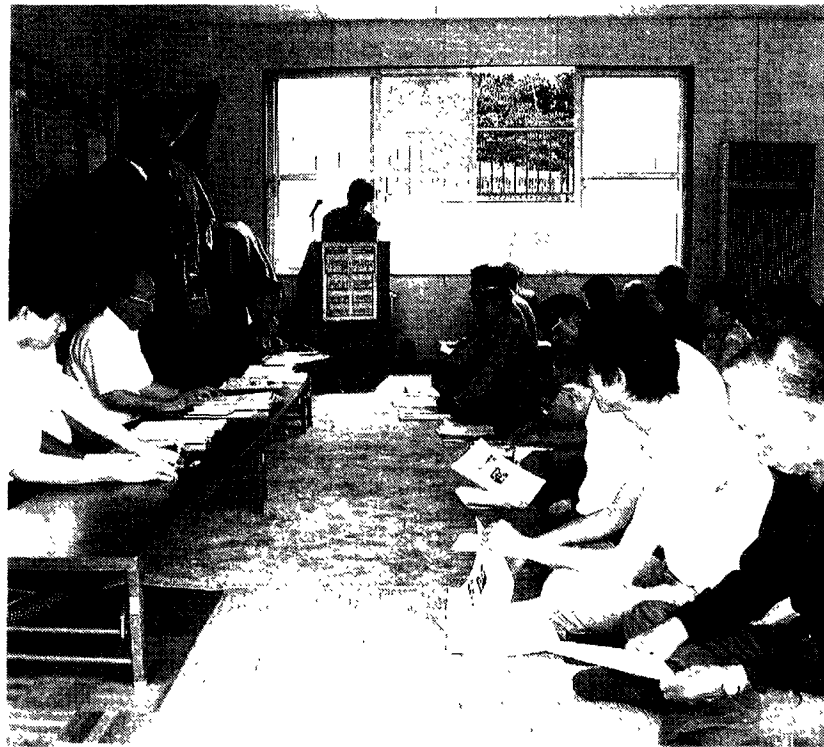


不安の中「早く撤去を」



フェロシルトは昨年十「積みされ、川が赤く濁っ」アップされた。県内でも二月、愛知県瀬戸市に野たことで初めてクロース「瑞浪市や土岐市、可児市

県内のフェロシルト埋設地重金属汚染

六価クロムなどの重金属汚染が判明した瑞浪、土岐、可児市のフェロシルト使用地では九日、住民らが環境への不安感をにじませた。ただ放射能汚染への心配から、これまでも撤去を求めてきた経緯があるだけに、全量撤去の方針に「これで安心して住むことができる」と安堵(あんど)する住民も。また「埋め立てを防ぐ手だてはなかったか」と行政に対する批判の声も上がった。

「なぜ防げなかった」

住民 行政の後手責める

に埋まっていることが次々に発覚。微量の放射性物質を含んでいることも分かり、住民らが石原産業に撤去を求めていた。住民運動を展開してきた。三重県に認定の取り

フェロシルト「安全製品」三重が認定

行政が推奨するリサイクル製品に、一転して土壌汚染の疑いがかけられている。埋め戻し材「フェロシルト」の使用箇所について県が行った調査で、重金属などの汚染が確認された九日、リサイクル用品に認定していた三

重県にある製造元の石原産業は対応に追われた。汚染との因果関係は不明だが、同社は汚染箇所からの回収を示唆する。だが販売量は東海三県で七十万トとされ、今後の汚染拡大については未知数。三重県の認定体制も問われるなど、波紋は広がりをみせている。県内三方所で検出された六価クロムは、量によっては皮膚炎や潰瘍(かさ)の原因になるという。同社は「安全を確認して出しており、原因はよく分からない」とするが、一方で「微量の三価クロムが入っており、それが六価クロムに変わる可能性はある」と認める。放射性物質を含むことや崩落・流出の恐れから、住民が反発を続けた。フェロシルト。住民との協議でも、同社は施工方法の過失を認め、製造・販売を中止しながら、製品については「リ

消しなどを求めてきた岐恵。今後は未然防止に努めたい」と述べた。これに対し、同市稲津町に住む長井君江議員は「市は住民への説明が十分でなかったのではないかと。住民の立場に立った対応を取ってほしい」と訴える。当初からこの問題にかかわってきた藩口昭八郎議員も「市の取り組みが遅かった」と指摘し、「環境を守るためにも罰則を考えるべき」と強い姿勢を示した。

サイクル品で安全」として回収を拒否した経緯がある。だが新たな汚染の懸念が生まれたことで、今後も各地で回収要請が続く可能性がある。同社幹部は「浄化する方法もあり、汚染が出れば検討する」と、販売した全量の回収には否定的な見解を示した。三重県は「認定にあたって含有量分析の報告を受けたが、六価クロムは検出されていない。成分に変更がないか、年一回

の報告も受けている」と説明する一方、「独自の成分調査はしていない」とする。認定で「造成時の埋め戻し材」としながら、可児市などでは「植木育成材」と称して使われるなど、認定が悪用された形跡もある。「フェロシルト自体は今も有価物で安全と考えている」と釈明する三重県。石原産業側の申し出で認定は取り消されたが、制度の在り方には疑問が投げ掛けられた形だ。